

2020年8月20日
日本郵便株式会社

特殊切手「美術の世界シリーズ 第2集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 衣川 和秀）は、魅力ある名作絵画などの美術品を題材として特殊切手「美術の世界シリーズ 第2集」を発行します。

第2集は「赤の世界」がテーマです。

1 発行する郵便切手の内容

所蔵元	(1) 東京国立博物館 (2) 足立美術館 (3) 松伯美術館 (4) 東京藝術大学 (5) 九州国立博物館 (6) 和泉市久保惣記念美術館 (7) 山種美術館 (8) 名古屋市美術館 (9) ひろしま美術館 (10) 国立西洋美術館	(1) 東京国立博物館 (2) 足立美術館 (3) (4) 東京藝術大学 (5) 和泉市久保惣記念美術館 (6) 山種美術館 (7) 九州国立博物館 (8) 名古屋市美術館 (9) 埼玉県立近代美術館 (10) ポーラ美術館
売価	630 円 (シート単位で販売します。)	840 円 (シート単位で販売します。)
小切寸法	(1) 縦 28.0 mm × 横 25.0 mm (2) 縦 26.0 mm × 横 27.0 mm (3) 縦 27.0 mm × 横 27.0 mm (4) 縦 26.0 mm × 横 30.0 mm (5) 縦 31.5 mm × 横 22.0 mm (6) (9) 縦 32.5 mm × 横 23.5 mm (7) 縦 34.0 mm × 横 22.5 mm (8) 縦 29.5 mm × 横 24.5 mm (10) 縦 25.5 mm × 横 30.0 mm	(1) 縦 35.0 mm × 横 27.5 mm (2) 縦 28.5 mm × 横 34.5 mm (3) 縦 38.0 mm × 横 30.5 mm (4) 縦 45.0 mm × 横 23.0 mm (5) 縦 29.5 mm × 横 35.5 mm (6) 縦 43.0 mm × 横 26.5 mm (7) 縦 42.0 mm × 横 32.3 mm (8) 縦 38.5 mm × 横 25.5 mm (9) 縦 31.0 mm × 横 35.5 mm (10) 縦 31.0 mm × 横 34.0 mm
印面寸法	(1) 縦 25.0 mm × 横 22.0 mm (2) 縦 23.0 mm × 横 24.0 mm (3) 縦 24.0 mm × 横 24.0 mm (4) 縦 23.0 mm × 横 27.0 mm (5) 縦 28.5 mm × 横 19.0 mm (6) (9) 縦 29.5 mm × 横 20.5 mm (7) 縦 31.0 mm × 横 19.5 mm (8) 縦 26.5 mm × 横 21.5 mm (10) 縦 22.5 mm × 横 27.0 mm	(1) 縦 31.5 mm × 横 22.6 mm (2) 縦 25.5 mm × 横 31.5 mm (3) 縦 35.0 mm × 横 27.5 mm (4) 縦 42.0 mm × 横 20.0 mm (5) 縦 26.5 mm × 横 32.5 mm (6) 縦 40.0 mm × 横 23.5 mm (7) 縦 38.5 mm × 横 29.3 mm (8) 縦 35.5 mm × 横 22.5 mm (9) 縦 28.0 mm × 横 32.5 mm (10) 縦 28.0 mm × 横 31.0 mm
シート寸法	縦 86.0 mm × 横 187.0 mm	縦 127.0 mm × 横 187.0 mm
助言・監修	高岸 輝 (東京大学大学院人文社会系研究科 准教授)	
切手デザイン	楠田 祐士 (切手デザイナー)	
版式刷色	オフセット 6 色	
発行枚数	800 万枚 (80 万シート)	2,500 万枚 (250 万シート)
販売場所	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の郵便局など ・「郵便局のネットショップ」^(注) ・銀座郵便局での郵便振替による通信販売 	

2 発行する郵便切手のデザインについて

美術の世界シリーズの第二弾は、「赤の世界」です。赤は、先史時代のラスコー洞窟（フランス）やアルタミラ洞窟（スペイン）の壁画で多用されるように、人類にとって最も身近な色でした。

鉱物性の顔料としては水銀系の朱、鉄系の弁柄、鉛系の丹、染料としては動物性の臓脂、植物性の紅などがあり、それぞれ色調を異にします。

今回は、17世紀から20世紀の日本絵画と工芸、ヨーロッパ絵画の中から、赤が特徴的な作例を選びました。朝焼けや夕焼けの光、燃え盛る炎、鮮やかな花弁、散りゆく紅葉など、見る者的心を搖さぶる暖色の効果は、画家や工芸家の創作意欲を強くかき立てるものであったといえるでしょう。

〈63 円シート〉

- (1) 「色絵月梅図茶壺」野々村仁清 東京国立博物館蔵（重要文化財）(Image: TNM Image Archives)
野々村仁清（生没年不詳）は、江戸時代前期、17世紀の半ばから末ごろに京都で活躍した陶工です。仁清が生みだした色絵陶器は実用性よりも鑑賞性を重視したもので、華やかな王朝風の美しさは大名などから人気を博しました。「色絵月梅図茶壺」の梅は、力強い幹と枝に大ぶりの紅梅の花弁が映え、金泥で表現された春霞がこれを柔らかく包み込んでいます。
- (2) 「愛染」川端龍子 足立美術館蔵
川端龍子（1885～1966年）は大正・昭和に活躍した日本画家です。はじめ洋画を学びましたが、やがて日本画に転じ、日本美術院の同人として活動しました。昭和初期に日本美術院を離れて青龍社を設立し、大胆な構図と明快な彩色で日本画に新風を吹き込みました。本作は、つがいの鴛鴦が、水面に散った紅葉を円形にかけながら泳ぐ様子を描いています。
- (3) 「鼓の音」上村松園 松伯美術館蔵
上村松園（1875～1949年）は近代を代表する女性日本画家です。本作は、若い女性が鼓を打つ姿を描いています。着物の赤色は、帯の青色と明確に対比されるとともに、白く繊細な指先の輪郭を浮かび上がらせる効果を発揮しています。
- (4) 「渡頭の夕暮」和田英作 東京藝術大学蔵
(画像提供：東京藝術大学大学美術館/DNPPartcom)
和田英作（1874～1959年）は明治から昭和にかけて活躍した洋画家です。東京美術学校（現在の東京藝術大学）を卒業し、のちに教授、校長を務めるなど、教育者としても知られました。
「渡頭の夕暮」は美術学校の卒業制作で、多摩川の下流にあたる矢口の渡しを描いたものです。川面に映る夕焼けのグラデーションが見事です。
- (5) 「浅葱地牡丹 燕文紅型衣裳」九州国立博物館蔵
紅型とは布面に模様を表すために糊防染を行い、顔料や染料で色を染める琉球（沖縄）で生まれた技法です。紅型の「紅」は色の総称、「型」は模様そのものを意味します。
本作は19世紀頃に制作されたもので、大輪の牡丹や生き生きと飛び交う燕が型紙を用いて布地に染め出されています。瑞々しくさわやかな淡い藍色の木綿地に赤色や黄色の模様が華やかな衣裳です。
- (6) 「富嶽三十六景 凱風快晴」葛飾北斎 和泉市久保惣記念美術館蔵
葛飾北斎（1760～1849年）は江戸で活躍した浮世絵師。「富嶽三十六景」シリーズは、天保2（1831）年ごろに出版された北斎の代表作で、西洋絵画に学んだ遠近法を駆使して富士山のさまざまな表情を描き出しています。「凱風快晴」は赤富士と通称され、山体の赤のグラデーションと青空・白雲の対比が新鮮です。
- (7) 「四季花鳥のうち秋（林梢文錦）」荒木十畝 山種美術館蔵
荒木十畝（1872～1944年）は明治から昭和にかけて活躍した日本画家で、花鳥画を得意としました。
「四季花鳥」は四幅対に春夏秋冬それぞれを装飾性豊かに展開した作品で、華麗な彩色と琳派的な

構図に特徴があります。本作はそのなかの一幅で錦秋の情景を主題とし、赤く色づいた葉の濃淡の変化が見所です。

(8) 「おさげ髪の少女」アメデオ・モディリアーニ 名古屋市美術館蔵

アメデオ・モディリアーニ（1884～1920年）はイタリア人画家で、主としてパリで活躍しました。その肖像画は、縦長にデフォルメされた輪郭と、哀愁に満ちた表情に特色があります。「おさげ髪の少女」は、頬の淡い赤、朱色の唇、衣服のピンク色など、赤色系の対比が特徴的です。

(9) 「ラ・フランス」アンリ・マティス ひろしま美術館蔵

アンリ・マティス（1869～1954年）はフランスで活躍した画家で、平面性を強調した構図と鮮明な彩色を得意としました。本作は左右対称のバランスの良い構図が特徴で、赤い衣を着た女性が黄色の背景の前に座っており、明るい色彩の対比が鮮烈な印象を与えます。

(10) 「しゃくやくの花園」クロード・モネ 国立西洋美術館蔵 (Photo: NMWA/ DNPartcom)

クロード・モネ（1840～1926）は、フランスで活躍した印象派の代表的な画家です。本作は、1887年に描かれた作品で、全体に荒々しい筆致で芍薬の花が咲き乱れる様子を描いています。花弁や葉に降り注ぐ太陽の光と影を、画家は注意深く描き分けています。

〈84円シート〉

(3) 「序の舞」上村松園 東京藝術大学蔵（重要文化財）

（画像提供：東京藝術大学大学美術館/DNPartcom）

上村松園（1875～1949）の代表作で、「何ものにも犯されない、女性のうちにひそむ強い意志」を表現することを狙いました。凜とした舞の所作をする身体は、赤色の振袖に包まれることで、緊張感の中にも華やかさを醸し出しています。

(4) 「鮭」高橋由一 東京藝術大学蔵（重要文化財）

（画像提供：東京藝術大学大学美術館/DNPartcom）

高橋由一（1828～1894年）は佐野藩士として生まれ、初め狩野派に学びましたが、やがて西洋の絵画に関心を深めます。幕末に習得した油彩技法によって、対象の実感的な描写に成功しました。明治10（1877）年ごろに描かれた「鮭」はその代表作で、鮭の身の鮮やかな赤色が、その質感も含めて緻密に描き出されています。

(6) 「炎舞」速水御舟 山種美術館蔵（重要文化財）

速水御舟（1894～1935年）は大正から昭和にかけて活躍した日本画家。大正14（1925）年に描かれた本作は御舟の代表作で、炎に集まる蛾の様子を徹底的に観察し、写実性と幻想性を併せ持った画面に仕上げています。飛び交う蛾や燃え盛る炎の形態や彩色からは、御舟が日本や中国の古典絵画を深く学んでいたことがわかります。

(9) 「ジヴェルニーの積みわら、夕日」クロード・モネ 埼玉県立近代美術館蔵

クロード・モネ（1840～1926年）による、農場の「積みわら」を描いた連作のうちの一枚です。

モネはしばしば連作を描きましたが、いずれも季節や時間によって変化する光の表情を捉えることに強い関心を向けています。夕映えの空や、大地の複雑な色の変化が見所です。

(10) 「リュート」アンリ・マティス ポーラ美術館蔵 (画像提供: ポーラ美術館 / DNPartcom)

アンリ・マティス (1869~1954年) は、室内の人物をしばしば描きました。赤色の地の壁紙と絨毯にはリズミカルな文様が配され、大きな花瓶が置かれた机も赤色に塗られています。左側でリュートを演奏する女性のドレスにも赤色の文様が散らされており、画面全体が赤を基調とした旋律のようなパターンを示しています。

3 美術作品の所蔵元について

各美術作品の所蔵元の情報は次のとおりです。(切手に関する照会は所蔵元ではなく、弊社お問い合わせ先までお願いします。)

なお、作品は常に展示されているとは限りません。

(1) 東京国立博物館

住所: 〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9

HP: <https://www.tnm.jp/>

(2) 足立美術館

住所: 〒692-0064 島根県安来市古川町 320

HP: <http://www.adachi-museum.or.jp/>

(3) 松伯美術館

住所: 〒631-0004 奈良市登美ヶ丘 2-1-4

HP: <https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/shohaku/>

(4) 東京藝術大学 大学美術館

住所: 〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

HP: <https://www.geidai.ac.jp/museum/>

(5) 九州国立博物館

住所: 〒818-0118 福岡県太宰府市石坂 4-7-2

HP: <https://www.kyuhaku.jp/>

(6) 和泉市久保惣記念美術館

住所: 〒594-1156 大阪府和泉市内田町 3-6-12

HP: <http://www.ikm-art.jp/>

(7) 山種美術館

住所: 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 3-12-36

HP: <http://www.yamatane-museum.jp/>

(8) 名古屋市美術館

住所: 〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25

HP: <http://www.art-museum.city.nagoya.jp/>

(9) ひろしま美術館

住所: 〒730-0011 広島県広島市中区基町 3-2

HP: <https://www.hiroshima-museum.jp/>

(10) 国立西洋美術館

住所: 〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7

HP: <https://www.nmwa.go.jp/>

(11) 埼玉県立近代美術館

住所: 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1

HP: <https://pref.spec.ed.jp/momas/>

(12) ポーラ美術館

住所: 〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山 1285

HP: <https://www.polamuseum.or.jp/>

4 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

(注) 「郵便局のネットショップ」への掲載は、2020 年 10 月 16 日（金）の予定です。

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

0120-2328-86（フリーコール）

携帯電話から 0570-046-666（有料）

＜受付時間 平日 8:00～21:00

土・日・休日 9:00～21:00＞